

氏 名（国籍）

ばく

朴

どん

東

そつぶ

燮

（韓

国）

学位の種類

博士（学術）

学位記番号

博 甲 第 4035 号

学位授与年月日

平成 18 年 3 月 24 日

学位授与の要件

学位規則第 4 条第 1 項該当

審査研究科

人間総合科学研究科

学位論文題目

幼児・児童の共同活動における状況の定義のダイナミックな構成過程

主査

筑波大学教授

教育学博士

海 保 博 之

副査

筑波大学助教授

博士（教育学）

茂 呂 雄 二

副査

筑波大学助教授

博士（心理学）

佐 藤 有 耕

副査

筑波大学講師

博士（心理学）

大 六 一 志

## 論 文 の 内 容 の 要 旨

（目 的） 本研究は、幼児・児童の共同活動のプロセスとその所産の関係について、共同問題解決活動の参加者の能動的な場面解釈とされる状況の定義の観点から見直し、共同活動のダイナミズムを明らかにすることを目的とする。

（対象と方法） 幼児・児童を対象に、園・学校および家庭等の自然場面における共同問題解決過程の定性的・記述的研究と、実験場面における共同問題解決活動に関する定量的研究をおこなった。

（結 果） 第 1 部の 2 つの実験的研究を通して、従来の研究パラダイムの困難を指摘した。第 2 部では、2 つの文献研究を通して、従来の共同問題解決研究の分析単位と焦点化された側面を特定し、従来の研究の限界点を明らかにし、今後の研究の方向性を提案した。第 3 部では、観察資料の定性的な分析に基づく 2 つの研究を行って、状況の定義の異種混交性と状況の定義のダイナミックスとそれによる幼児・児童の共同活動のダイナミズムを明らかにする概念的ツールを作成した。第 4 部では、保存課題、バランス課題、マトリクス課題を用いて、実験的な場面での共同活動過程を吟味し、状況の定義のレパートリーの発達ならびに状況の定義のモード・タイプと動揺と共同活動の展開の関係を明らかにした。

（考 察） 本研究は、従来の共同活動に関する研究が見逃した、変化しやすさや揺れなどの共同活動のダイナミックな特質の一端を明らかにした。理論研究及び定性的な研究から、状況の定義の揺れ、状況の定義のタイプとモード等の理論的な概念ツールを構成した。実験場面での共同問題解決プロセスと所産との関係を見直すための方向性が得られた。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、共同問題解決等の共同活動に従事する、幼児及び児童が課題状況をどのように意味付けるのかに着目して、自然な生活場面での共同活動並びに実験場面での共同活動を分析した。まず日常生活の観察資料を分析して、幼児・児童の能動的な場面解釈を類型化することのできる、状況の定義のゆれ、ならびに状況の定義のタイプおよびモードなどの、分析上の道具を用意した。これらの概念的な分析ツールに基づいて、

実験場面での幼児及び児童の共同問題解決過程を分析し、状況の定義のレパートリーが発達とともに変化し、学齢期以前では遊びの定義が多いが、就学後に分化して教授・学須臾的な状況の定義への変化すること、ならびに共同作業する指向は学齢期前でも十分発達しないことがあきらかになった。また用いる課題の持つ制約条件が状況の定義の多様性や動揺を媒介にして、課題達成に影響を及ぼすプロセスを明らかにした。

本論文は、母子間あるいは子ども同士の共同問題解決研究において、これまで十分に科学的な概念化が及ばなかった、共同活動の時間的な変移と変化に関して、適切な概念化を与えたことは高く評価できる。共同活動は創造的な問題解決学習にとって重要な条件と考えられるから、幼児および児童を共同活動に活発に従事させるための条件の特定等、本研究が開発した概念的道具立ての利用の可能性は高い。今後の発展も期待できる研究である。

よって、著者は博士（学術）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。